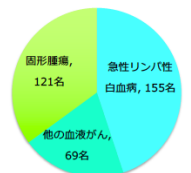
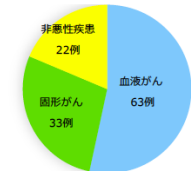


1. 県内唯一の小児がん治療・造血細胞移植施設

当科の小児がん患者さんの種類の内訳



移植治療を行った小児患者さんの病気別内訳

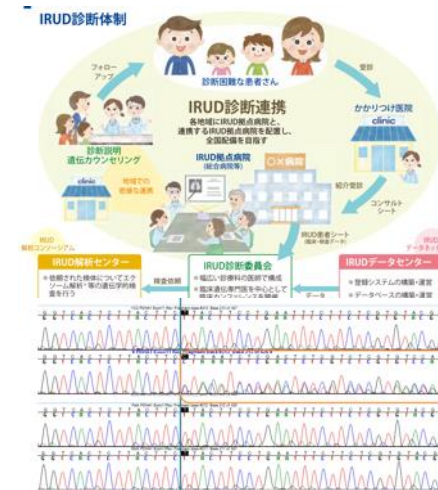


- 厚生労働省の定める地域小児がん連携病院。
- 白血病、神経芽腫、横紋筋肉腫などの様々な小児がんに対して、日本小児がん研究グループの治療研究に参加し治療をおこなっている。
- 「がんゲノム医療連携病院」として難治性小児がんに対してがんゲノム検査を施行。
- 難治性小児がんや免疫不全症や骨髄不全症候群などの非悪性疾患に対して、非血縁骨髄・臍帯血移植を含む移植療法を行っている。

3. 県内唯一の小児の腎生検施設

- 慢性腎炎や難治性ネフローゼ症候群の治療にあたり、正確な診断をするために、腎生検（腎臓の組織を採取して行う検査）は欠かせない検査である。当院は、山梨県内で唯一小児の腎生検を行うことができる医療機関である。
- 腎生検の結果に基づいて、それぞれの病状に応じた治療を行っている。
- 近年、難治性の症例に対して生物学的製剤の治療が可能になっており、当院においても難治症例に対しては生物学的製剤の導入を行っている。

2. 遺伝子解析による小児慢性特定疾患・指定難病の診断

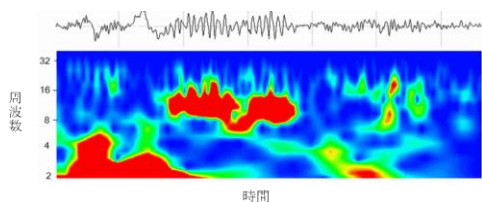


- 日本医療研究開発機（AMED）の実施している未診断疾患イニシアチブ（IRUD）事業に、山梨県で唯一参加。
- 診断のつかない難病の患者さんに対し、次世代シーケンサーによる全ゲノム解析を行う。全国で7000名以上が参加し（山梨では45名）、遺伝性難病の診断率が約40%に向上。
- 最新の遺伝子解析技術を用いて遺伝子診断を行い、患者さんの適切な治療と健康管理を提供する医療を目指している。

4. 小児リウマチ診療中核施設

- 当院は、日本小児リウマチ学会における小児リウマチ診療中核施設の要件を満たす施設であり、県内で唯一、小児リウマチ外来を開設している。
- 難治性の小児リウマチ・膠原病に対して生物学的製剤の治療を積極的に行っている。

5. 高次脳機能解析法を用いた認知機能評価



脳波や近赤外線スペクトロスコピー(fNIRS)を使用して脳機能を可視化して評価。

6. 山梨県唯一の 脊髄性筋萎縮症(SMA)に対する遺伝子治療施設

神経難病として知られる脊髄筋萎縮症の治療薬オナセムノゲンアベパルボベクを用いた遺伝子治療を行っている。

7. 小児のカテーテル治療施設



- 先天性心疾患や川崎病など、こどもの心臓病に対し、専門的な医療を行っている。心臓カテーテル検査は心臓の状態の評価に必要な検査の一つであり、山梨県では当院で行っている。
- また、必要に応じて、経皮的血管形成術や異常な血管に対する塞栓術などのカテーテル治療を行っている。

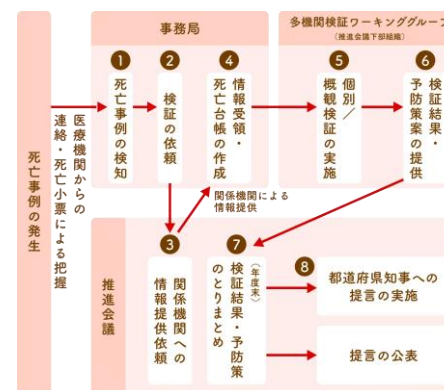
8. 山梨県内の川崎病治療の中核施設



- 川崎病は、山梨県でも年間100人以上の子供が罹患する病気である。心臓の血管に後遺症を残してしまう可能性のある病気であり、山梨県のすべての小児入院施設と連携し、治療の標準化を行っている。
- 山梨大学は、その中核施設としての役割を担うとともに、治療抵抗性川崎病に対する血漿交換療法など、より高度な医療の提供を行っている。

9. チャイルド・デス・レビュー事業で県と連携

CDR実施のイメージ(こ家庁)



- こども家庭庁が進める「予防のためのこどもの死亡検証」のモデル事業を、令和2年から山梨県と協働で実施している。
- 医療機関、県、市町村、警察、消防、幼保学校など多職種の連携によりこどもの死亡の予防策を県に提言し、施策として実施している。
- 全国展開にむけてのノウハウを蓄積し、国に対して提供している。